

八 議 総 第 2 1 号
平成 2 9 年 9 月 1 2 日

八雲町議会議長
能登谷 正 人 様

総務経済常任委員会
委員長 佐 藤 智 子

委員会所管事務継続調査報告書

本委員会が、閉会中の継続調査として決定を受けた所管事務調査について、八雲町議会会議規則第 7 5 条の規定により下記のとおり報告いたします。

記

1. 調査事件

- (1) 防災に関する事項
- (2) 商工観光の振興に関する事項
- (3) 北海道新幹線札幌延伸に関する事項
- (4) 水産業の振興に関する事項

2. 調査期間

平成 2 7 年 1 1 月 2 5 日から平成 2 9 年 9 月 1 2 日

3. 調査結果のまとめ

(1) 防災に関する事項

地震・津波を始め、近年においては日本各地において異常気象による豪雨、強風、土砂災害など様々な自然災害が発生し人命や財産などが奪われるなど悲痛な事故が発生しており、防災意識の啓発や災害発生時の緊急対応策など地域防災体制の整備を図ることは極めて重要なこととあります。

常任委員会として、災害備蓄品の調査、防災行政無線に関する調査、避難路に関する調査等を次のとおり実施した。

【調査内容】

・平成 2 8 年 8 月 2 日

災害備蓄用品の保管状況の現地調査を実施。八雲小学校体育館、三杉町車両

センター、落部中学校体育館において圧縮毛布、防災マット、備蓄発電機等の現地確認を行った。

・平成28年12月14日

八雲町防災行政無線運用要綱案について、平常通信時の放送事項、非常通信時の緊急放送の内容の説明を担当課から受け、協議を行った。

・平成29年3月10日

日本海沿岸の津波浸水想定について、熊石地域の津波到達時間、津波水位のシミュレーション結果の説明を担当課から受け、協議を行った。

・平成29年6月8日

防災行政無線の運用について、担当課から説明を求め協議を行った。

現在八雲地区では定時ミュージックチャイム曲で、また熊石地域でも日に1回は「花の首飾り」が流れているが、住民から不評が出ているので曲の変更が可能か否か協議した。また、火災時のサイレンの前に流れるアナウンスは聞き取りにくいことから、今後の対応について協議を行った。

・平成29年6月30日

避難路について、前常任委員会からの継続調査の案件でもあることから、熊石地域の現状と課題を担当課から説明を受け、現地調査を行った。

【調査結果まとめ】

災害備蓄品については、今あるものに加えて石油ストーブや発電機など、何がどこに必要か再点検し、計画的に揃えていくことが必要ではないかと思われる。三杉町の車両センターにある発電機は役場でも使用方法がわからない職員が多いと考えられるので、研修または避難訓練で実際、使ってみることが肝心ではないか。

防災行政無線については場所や風向きによって聞こえ方に違いがあり、住民から苦言を呈されている。改良までには試行錯誤しながら、数年かかることが予測されるが、内容が伝わってこそその機器であるので、調整しつづけるよう関係課に求めていく。放送時の音声の聴き取りづらさは早急に改善されたい。デジタル音ではなく肉声のほうが聞きやすいので、その辺を調整していただきたい。ミュージックチャイムについては「変えてほしい」という強い要望が出ているのに一向に変える姿勢が見られない。昼はそのままでも良いので、夕方だけでも別の曲に変えるよう求める。

避難路については要望書として町に提出する予定。車で避難できるように西浜から熊石小学校まで道路整備をすすめる必要があると判断し、それを行政側に伝えていく。

(2) 商工観光の振興に関する事項

道南休養村の活性化について、これまで熊石地域の観光拠点として位置づけ、施設の老朽化による解体も含め各施設の整備を図ってきた。一昨年新たな観光レクリエーション施設として「くまいしパークゴルフ場」を整備したが、2年目となる昨年の利用状況とエリア内にある熊石青少年旅行村の利用状況及び施設内の現状を現地調査した。

【調査内容】

・平成29年6月30日

くまいしパークゴルフの利用状況及び熊石青少年旅行村の利用状況、利用者の分析などの説明を担当課から受け、今後の情報発信の方法など協議を行い、旅行村の利便性を再確認するため現地調査を行った。

【調査結果まとめ】

道南休養村の改善案を要望書にまとめた。

道南休養村を宣伝するホームページを新設し、ドローン等を利用して動画を作製し、ユーチューブ上に発信して、リピーターだけでなく、あらたな観光客を掘り起こすべきである。

すばらしい施設をさらに良くするための提案も行っていく。

キャンプ場に物資をリヤカーに積んで降りていく小道があるが、車が通れるように拡幅舗装するよう求める。また、オートキャンプ場化を一部に取り入れるための設計、施工等に予算付けを行うよう求めていく。

(3) 北海道新幹線札幌延伸に関する事項について

昨年、北海道新幹線が開業し、新幹線八雲駅（仮称）周辺の整備については今後のまちづくりの上では大きな課題であります。札幌延伸にまでは、まだ十数年かかるといわれているが、現在、建設整備工事としてトンネル掘削工事が進められており、掘削土処理及び排水処理について、現状を把握するため調査を行った。

【調査内容】

・平成28年12月14日

新幹線建設工事に伴うトンネル掘削土処理及び排水処理について、担当室から建設される6トンネルの概要、発生する掘削土のうち要対策土の対応方法、住民説明会の開催状況、トンネル内の排水処理の状況について説明を受け協議を行った。また、新幹線八雲駅予定地及び立岩トンネル掘削残土の状況について現地調査を行った。

【調査結果まとめ】

新幹線建設工事については駅周辺整備と合わせて、アクセス道路をどうするかなど、今期は未調査に終わった。それらについては今後も継続調査が必要である。

長期にわたる新幹線トンネル工事については、掘削土や排水状況など、住民のくらしに影響するものであるから、機構には安心安全な工程と、一次産業など関係分野だけでなく、住民に対して絶えず、情報提供、情報共有を念頭に情報発信をしていただきたい旨を町の担当課を通して伝えていただく。

(4) 水産業の振興に関する事項

日本海における熊石地域の漁業経営安定化対策については、後継者対策も含め、前常任委員会より継続調査の引継ぎを受けているところであります。中長期的な展望に立ち、生産性の向上、経営の安定を図ることが重要課題であることから、日本海地域の資源の有効活用、増養殖の実証・導入及び漁場の有効活用の取り組みを調査した。

【調査内容】

・平成28年2月22日

ひやま地域サケ・ニシン増養殖事業について、6町の広域的な連携による資源の再生増大を図るための施策として担当課から説明を受け、協議を行った。

・平成28年9月9日

八雲町熊石地域漁業振興緊急対策事業として、ホッケ増養殖事業の施設整備の状況及び養殖実績について担当課から説明を受け、協議を行った。

・平成29年6月8日

牡蠣の六次産業化事業を展開している(株)ゼネラル・オイスター社との懇談内容について、担当課から説明を受け協議を行った。

・平成29年6月30日

海洋深層水を利用した牡蠣・ホタテ養殖試験計画の概要説明を担当課から説明を受け、協議を行った。また、牡蠣・ウニの養殖施設の現地視察も実施した。

【調査結果まとめ】

熊石地域の漁業はひやま漁協一体のイカやスケソウの不漁で苦況を強いられている。海洋深層水で牡蠣やホタテを蓄養し、歩留まりや味をどこまで維持できるかを試験する新規事業はアワビやナマコの養殖に加えて、熊石の漁業を支える一助となるのか注視しているところである。今後も継続調査を要する。